

二条中学校便り

第 1 1 号

平成18年10月13日

京都市立二条中学校

文化祭までカウントダウン！本番に最高の力を

さわやかな秋空が続いています。先週6日に前期の終業式が行われました。しなやかな竹の成長を支える「節目」としての三日間の秋休みを有意義に過ごせたでしょうか。後期が始まり、いよいよ来週18・19日が「思索と創造」の文化祭です。

すでに配布物でお知らせしていますが、1日目は午前中講堂で舞台発表(鑑賞) 午後は各教室での展示発表(鑑賞)。2日目は

こども文化会館に場所を移し、午後から音楽発表会の予定です。生徒達は、劇や制作・音楽などのそれぞれの場面で仲間とともに一つのことを成し遂げる活動を通し、今ここでしかできない貴重な体験を積み重ねている最中です。文化祭当日は多数御来校いただき、生徒達の成長ぶりをご覧いただけますことを心から願っています。(18日は給食がありません。お弁当等がいります)



今年度の全校手話コーラスSMA Pの「Triangle (トライアングル)」

11日5限、全校集会形式で、文化委員会主催全校手話コーラスの最後の練習が行われました。アンケートなどをもとに選ばれた今年の曲はSMAPの「Triangle」。現代の様々な状況の中にあって、強い意志を持って平和を願うメッセージ性の高い歌です。歌詞の多い難曲ですが、大きな歌声とはっきりとした手話、どちらもあわせて、全国で二条中学校だけしか行っていないこの取組を成功させましょう。吹奏楽部の華やかな伴奏が、文化祭のエピローグを飾ってくれることを期待しています。

僕の目が 君の手が 僕らの声が
それぞれ異なっているように
自由でこそ命だから～



体育系部活動の新人戦。野球部は予選リーグを2位通過し、14日にベスト8をかけて神川中と対戦します。女子バスケも予選リーグ通過が決定しました。

多数のご参加をお待ちしています！

10月23日(月)午後1時15分～講堂にて進路説明会を開きます。全学年保護者と3年生の生徒対象です。年々かわる入試制度や特色ある高校などについて、山城高校と平安高校の先生方からお話していただきます。

また10月27日(金)午後3時30分～いきいき交流ルームで2年生保護者対象「生き方探究チャレンジ体験」事業の説明会を開きます。

二期制 後期が始まりました 生徒指導部の先生の話より



今年の高校野球は甲子園、国体ともに斉藤投手と田中投手の投げ合いで幕を閉じましたが、今から8年前の話です。今プロ野球の西武で活躍している松坂投手率いる横浜高校は、松坂投手が高校3年生の時、春・夏の甲子園、秋の国体と優勝し、いわば無敵の存在でした。

このチームに勝つチームがあるとすればPL学園だろうと言われていました。そのPL学園も春には準決勝で2点に抑えられ惜敗。雪辱を期しての夏、PL学園はキャッチャーの構えから球種を判断できることを研究してつかみ、4点を奪いました。しかし横浜もそれに気づき修正して延長戦に持ち込みます。斉藤投手と田中投手の延長戦の投げ合いは現在の規定で15回まででしたが、当時は18回まででした。延長の17回、再試合になるかもというところで、それまでエラーのなかったPL学園に迷いがでました。

野球では相手のバッターがゴロを打ったとき、精一杯前に出ながらボールを受けなければうまくいかないのですが、「本当に前に出てうまく捕れるのか？」と思ったところに打球が来て後ろにそらしてしまいました。その後ホームランを打たれPL学園はまたも惜敗したのです。思い切ってやることに、迷いやためらいがあっては何事もうまくいかない、という例でしょう。

がんばるべきことに思い切って取り組んでいれば、人を困らしたり、物をこわしたり、学校や学校への行き帰りにお菓子などを食べたりする気持ちにはならないはず。しっかりした目標をもってがんばっていれば、そんなことはしたくならないと思います。うまくいかないことがある時ほど、あせりやいらだちに負けないで、あきらめずに冷静にじっくり自分のがんばりを少しずつ増やしていき、自分に自信と勢いをつけてください。

さて、文化祭の取り組みには、多くの人が意欲的に取り組む姿が見られ、その活動ぶりに感心しながら文化祭を楽しみにしています。しかし、合唱での歌い方、合奏での演奏のしかた、劇での演技方、劇に必要なものの制作、展示作品の制作などの様子を見ていて一部の人に遠慮がちになったり、はずかしさで照れてしまったりしている様子や、だるさで主体的な意欲の感じられない様子が見られます。これはとてももったいないことです。思い切ってやるほどやったことに充実感をもつことができ、見る人にも感動を与えます。

私はこの夏、二人の父の看病をしました。一人は私の父で心臓が弱り、呼吸も苦しそうで寝たきりになり、一時は意識もはっきりせずこのまま逝ってしまうのではと感じ、一晩中付き添っていました。その後もちなおして今はだいぶ良くなってきています。その父がよくなり出した頃、妻の父が脳内出血で倒れ、一週間後に逝ってしまわれました。その時も一週間の間、病室で夜付き添っていました。

この二人の父に付き添ったときに頭の中に浮かんだことは「もっとこうの方がよかった。とか、なぜ、あれができなかったのか」など、なぜか思い切ってできなかったことばかりなのです。

人間やはり思い切ってやらないことが悔いになることを改めて考えさせられました。みなさん、ぜひ、全員が思いきって取り組んだ文化祭になるようがんばって下さい。

